



これまでも、これからも、

私たちは、地域の皆さまと共に歩み続けます。



社会貢献活動の基本方針

地域社会の一員として地域社会との交流を深めるとともに、文化・教育振興支援、社会福祉活動等の社会貢献の継続的な活動を通じ、地域との共栄、地域奉仕を実践してまいります。

■地域との交流

地域社会の一員として地域との交流を深めるため、地域行事に積極的に参加しております。



地域行事への参加

毎年5月に行われる「仙台青葉まつり」では、祭りのハイライトである山鉾巡行に参加しているほか、毎年1月に行われる小正月の伝統行事であるどんと祭では、大崎八幡宮へ裸参りを行っております。



一店舗一貢献運動

地域との交流を深めるとともに、社会貢献に対する当行行員の意識の高揚を図るため、「一店舗一貢献運動」を実施しております。本運動は、当行の営業店142ヵ店全て（振込専用支店を除く）の営業店において、当行で掲げる6つのテーマに沿った社会貢献活動を選定のうえ、実施しております。

■文化活動の後援

地域の文化振興に貢献するため、多くの文化活動、祭・催し物等への協賛を行っております。



七十七スターライトシンフォニー

仙台市民の手作りによる冬の風物詩として定着している“SENDAI光のページェント”を、当行も市民の一員として盛り上げていくため、1991年より「七十七スターライトシンフォニー」と題してチャリティーコンサートを開催しております。

2019年12月、広瀬香美さんをゲストに迎え、仙台フィルハーモニー管弦楽団の演奏をバックに数々のヒットナンバーをお届けしたほか、震災復興や光のページェントの運営等に役立てていただけるよう募金活動も実施いたしました。



七十七ふれあいコンサート

「七十七ふれあいコンサート」は、地域の小・中学生の皆さまに生のオーケストラ演奏に接する機会を提供することを目的に、仙台フィルハーモニー管弦楽団に協力いただき、1992年度から継続して開催しているコンサートです。

2019年度は涌谷町立涌谷中学校、角田市民センターにおいてコンサートを開催し、児童、生徒およびご父兄等約970名の皆さまに迫力ある演奏を鑑賞いただいたほか、オーケストラの楽器紹介や指揮者体験をお楽しみいただきました。

■金融教育の支援

本店にある金融資料館や体験型教育プログラムを活用し金融教育を支援しております。



金融資料館

七十七銀行金融資料館は当行の創業120周年を記念して、地域の皆さまの長年のご愛顧に感謝するために開設いたしました。当館ではお金の歴史と役割や、銀行の誕生と発展、宮城県や日本の産業・経済などについて分かりやすく紹介しております。

また、2019年3月には創業140周年を記念し一部ゾーンをリニューアルいたしました。新たにプロジェクションマッピングやお子さま向けの金融教育エリアを新設し、七十七銀行と地域とのかかわりやお金と暮らしの関係、銀行の3大業務などについて、楽しみながら学んでいただける施設となっております。2019年度は、小・中学校計72校の生徒を含む約2,960名の皆さまにご来館いただき、金融教育の場にご活用いただきました。



東北学院大学提供講座

地域経済の発展と人材育成に資する教育研究を通じて地域への社会貢献を推進することを目的に、2011年度から、東北学院大学経営学部において「七十七銀行提供講座」を開講しております。

銀行業務の具体的内容や最近の金融動向および地域金融機関の役割等について、当行行員が講義を行う本講座は、2019年度で9回目となり、2019年9月に開講した講座は約290名の学生が受講いたしました。



全国高校生金融経済クイズ選手権

「エコノミクス甲子園」宮城大会

人生設計や生活防衛に不可欠な金融経済知識を習得する教育事業を通じて、地域への社会貢献を図るため、特定非営利活動法人金融知力普及協会との共催により、全国高校生金融経済クイズ選手権「エコノミクス甲子園」宮城大会を2009年度から開催しております。2019年12月には、11回目となる宮城大会を当行本店で開催いたしました。

■スポーツの振興

当行では、運動部の活動を通じて地域のスポーツ振興に取り組んでおります。



クローズアップ

世界を舞台にはばたく、 パラバドミントン選手

硬式野球部、陸上競技部、バドミントン部は、都市対抗野球大会や日本陸上競技選手権大会、バドミントンSリーグなど、全国レベルの大会等に出場し活躍しているほか、日々の活動において指導教室等を開催し、地域のスポーツ振興に寄与しております。今回は、バドミントン部の鈴木亜弥子選手にお話を伺いました。

バドミントン部 鈴木 亜弥子 選手

「バドミントンの醍醐味は、力尽くではなく頭を使って試合するところ。相手の様子を見ながら駆け引きするのが楽しいです」と話す鈴木亜弥子選手は、当行バドミントン部に所属しています。パラバドミントン・上肢障害SU5のクラスで2017年の世界選手権をはじめ、数多くの国際大会などで優勝し、数年にわたって世界ランキング上位の座をキープ。日本を代表するパラスポーツ選手の一人として期待されています。

一度は現役を引退しましたが、パラバドミントンが世界的なパラスポーツの大会で正式競技として採択されたことをきっかけに、5年ぶりに現役復帰。復帰後初の国内大会で優勝を果たした後、高校時代のコーチが当時当行でコーチをしていた縁から当行同部に所属することになりました。

とになりました。

普段、午前中は当行本店でオフィスワークに従事し、午後から同行中山体育館で練習を行っています。「実業団には初めて所属していますが競技に集中できる環境が整っており感謝しています。周囲の期待に応えたいですね」と鈴木選手。同部では、地域の中学生やレディースチームと一緒にプレーをして交流を図ることもあり、これまでの競技人生ではなかったという経験をエネルギーに変え、日々練習を積んでいます。

日本代表への選出、そして中国のライバル選手に勝利して金メダル獲得へ。「金メダルを獲る自信はありますよ」と力強く語ります。

運動部3部合同運動教室 「77キッズ・チャレンジ ～はしる!うつ!なげる!～」の開催

スポーツ振興を通じて東日本大震災復興の一助になればとの思いを込め、技術指導等を積極的に行っております。

2019年9月には、小学1・2年生の児童とその保護者の方を対象に、当行運動部3部合同の運動教室を開催いたしました。約300名の参加者の皆さまに、野球、陸上、バドミントンのすべてのスポーツを体験し、楽しんでいただきました。



■環境問題への取り組み

森林保全活動や省エネ型設備の設置を行うなど環境問題への取り組みに努めております。

環境方針	【基本理念】 七十七銀行は、良き企業市民として、美しく豊かな自然環境を守り、次の世代により良く引き継いでいく社会的責務があると考えています。 当行は、経営の基本理念である行是の第一に掲げる「奉仕の精神の高揚」という考え方のもと、地域社会と共生する企業を目指し、持続可能な社会の形成に向け環境保全活動に積極的かつ継続的に取り組んでまいります。	【行動指針】 1. 環境に関連する法規制、協定およびその他当行が同意する事項を遵守します。 2. 省エネルギー、省資源およびリサイクル活動を推進し、環境負荷の軽減に努めます。 3. 環境に配慮した金融商品、サービスの提供により、環境保全に取り組むお客さまを支援します。 4. 役職員一人ひとりが環境問題に対する認識を深め、地域社会の環境保全活動を推進するために、啓発活動に取り組みます。



森林保全活動の実施

当行では、創業140周年記念事業の一環として、2018年9月に宮城県等と締結した「みやぎ海岸林再生みんなの森林づくり活動」の協定に基づき、仙台市荒浜地区で役員と2018年度の新入行員がクロマツの苗木1,000本を植樹しました。植樹地は「七十七 未来の森～For the Future～」と命名し、災害から地域を守る海岸防災林となるよう管理をしております。



金融商品・サービスを通じた環境保全活動

当行では、金融商品・サービスを通じて、環境保全活動等の社会貢献活動に積極的に取り組む企業や、個人のお客さまを支援しております。

・事業者向け商品

地球温暖化防止、リサイクル関連設備導入等に取り組む企業を対象とした「<七十七>社会貢献活動支援ローン」および「77ESG私募債」をお取扱いしております。

・個人のお客さま向け商品

「<七十七>ESG日本株オープン(みやぎの絆)」は、創業140周年を記念し、取扱いを開始いたしました。本ファンドでは、当行が受け取る信託報酬の一部を東日本大震災により壊滅的な被害を受けた海岸防災林の再生活動のため寄付しております。



マテリアルリサイクルの実施

産業廃棄物として処分されている女性行員の使用済事務服について、日本環境設計株式会社が企画するBRINGプロジェクトに参加し、新たな資源として再利用可能なマテリアルリサイクルを実施しました。

マテリアルリサイクルとは、使用済み衣料品などを回収し、新しい製品の材料もしくは原料として再利用する仕組みであり、再生原料を使用し衣料品等を製造した場合、CO₂を約55%削減できる効果があるため地球温暖化対策に有効とされています。

■社会福祉への貢献

募金活動や献血事業への協力を通じて、社会福祉に貢献しております。



七十七愛の募金会

「七十七愛の募金会」は当行がこれまで地域社会から受けてきたご支援への感謝の意を表すため、1994年に社会福祉事業・施設等への寄付を目的として、当行役職員により設立いたしました。

2019年度は、宮城県内社会福祉協議会から推薦を受けた社会福祉施設10団体と、ボランティアグループ14団体に対し、総額333万円を寄付いたしました。贈呈した募金は、施設の修繕費用、ボランティア活動運営費などにご活用いただいております。また、令和元年台風第19号にかかる募金を実施し、日本赤十字社に災害義援金171万円を贈りました。



「小さな親切」運動

当行は、「小さな親切」運動宮城県本部の設立以来、44年にわたりその活動の事務局を務めており、企画・運営に携わっております。

毎年、仙台七夕まつりの開催前には、「夏の仙台・クリーンキャンペーン」を実施しているほか、毎年県内の社会福祉施設に車椅子を寄贈するとともに、老人福祉施設を慰問し、演芸大会などを行っております。そのほか、県内の小学校などに花の種子を寄贈する活動および使用済の切手の収集を行い収集実践団体等へ寄贈する活動も行っております。